

1. 調査目的等

中学校全学年・義務教育学校(7～9年)の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

2. 学校ごとの指標

標準学力分析検査において、標準偏差値50以上にする。

3. 指標にむけての取組

- 授業のグランドデザインをもとにした授業改善。
- 考査前後補充学習の実施。
- 学力層D層生徒への個別の学習支援。

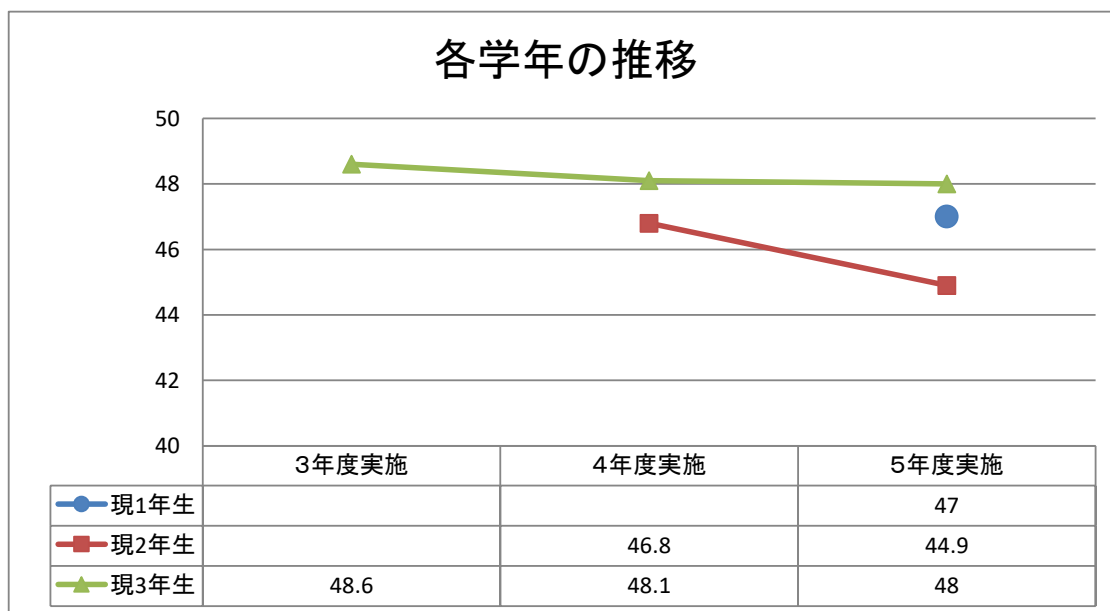
4. 調査結果

※学校平均5年間の推移

(標準偏差値50に対して)

年度	31年度 (元年度)	2年度	3年度	4年度	5年度
本校(A)	46.6	48.6	47.9	47.6	46.6
嘉麻市(B)	48.8	48.6	47.1	46	45.5
(A)－(B)	-2.2	0	0.8	1.6	1.1
標準偏差値との差 (A)－(50)	-3.4	-1.4	-2.1	-2.4	-3.4

各学年の推移



5. 各学校における分析

- 1単位時間の授業の流れを全教員で共通理解・共通認識し、学期毎に授業研修(相互参観)を行うことができ、授業力向上を図ることができた。
- D層生徒の支援の充実を図るために、考査後の補充学習を習熟度別で行ったため、手厚い支援を行うことができた。
- 家庭学習の充実を図るために、小学校と連携したノーメディアチャレンジを実施し、脱メディアの取組を行ったが、家庭学習の質と量の向上を図ることができなかった。

6. 各学校における今後の取組

- 授業力向上のために、1単位時間の授業と単元を通じた授業についての研修や授業実践(相互授業参観週間)を行う。
- 学習支援ソフト(電子ドリルキュービナ)を活用し、個に応じた学習支援体制を確立する。
- D層生徒を中心とした家庭学習支援のために、教育相談、家庭学習内容・方法の支援を考査前に行う。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、指導主事を派遣して校内研修で授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、AIドリルを活用した個に応じた家庭学習課題の推進を図る。
また、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。
- ◆学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方、ICTの利活用について指導する。